

おれんじ

NO.95

発行日 2024.6.8
発行・編集
土佐女子中学・高等学校
高知市追手筋2丁目3番1号
電話 875-3111(代)

入学式を終えて

学校長 濱田 美穂



ました。私は、「土佐女子に入学してよかった」と言っていただけで、精一杯式辞を読ませていただきました。これはその抜粋です。

一年があつという間に過ぎ去り、新年度が始まりました。4月8日には新入生を迎えて入学式を挙行し、新入生たちは新しい環境になじむべく、日々懸命に過ごしています。

入学式当日の午前中には予行練習が行われました。先日まで小学生だった中学一年生が、本番で緊張するのではないかと、式を最後までできると乗り切ることができたのだろうか心配いたしました。新入生たちは予想以上に落ち着いており、厳粛に式が進みました。本校での最初の式典を体験し、これから少しずつ土佐女子の生徒に育ってくださるだろうと頼もしく思いました。

当日は多数のご来賓・保護者の皆様のご参列を頂き

どちらをも調整して習得することが大切である。その上で、家庭にも社会にも貢献できる、自分の考えをしっかり持った、女性を育てるのが本校の目標である」と述べています。本校の四つの教育目標、明朗、聡明、愛情、気品はこの理念に基づいており、入学生の皆さんには、明日からの学校生活の中で、心に留めていただきたい言葉です。

また、皆さんの制服のえりとそで口にある二本の白線は太い線が母親、細い線は子供とみなし、母親の大きな愛情が子供を包んでいるという意味を持ちます。私たちはこれを親子線と呼び、愛情あふれる、心豊かな女性になってほしいという願いを込めています。

また、皆さんの胸につけている校章は、創立四十周年の折、本校の美術教員で日本のモネとも呼ばれた有名な画家、山脇信徳先生がデザインなさいました。土佐女子の「土」という字を五枚の梅の花びらが取り囲んでいます。梅の花は、新春早々に可憐な気品ある花を咲かせます。厳しい冬の風雪に耐え抜いて、香り高く咲くこの花のように、試練に打ち勝つことのできる女性に成長してほしいとの願いを込めています。みなさんには、制服や校章に込められた願いを体現するような学校

生活を送ってほしいと思います。

昨今は、社会の変化が目まぐるしく、わずかな年先の未来も予測が難しいと言われていて、しかし、そのような中でも変わらぬもの、大切に受け継ぎたいことがあると私は考えます。みなさんには、これから遭遇する時代の、どのような流れにも柔軟に対応できる逞しさとともに、いついかなる時も大切とされることも土佐女子で身につけてほしいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様、私ども教職員は、本校の百二十二年の伝統の普遍的な部分を守り、さらに発展させるべく、日々研鑽に励み、お嬢様も本校の歴史を刻む一人として迎え入れ、寄り添いたいと考えております。本校の教育活動へのご理解とご協力をどうかよろしくお願いいたします。

(令和六年四月八日
入学式挨拶より)



土佐女子中学校に入学して



私は土佐女子中学校に入学して、特に頑張りたいことが三つあります。

一つ目は、文武両道を常に目指すことです。中学生になったら宿題も増え、学校での勉強量も増えると思います。しかも、私は卓球部に入部しようと思っているので練習量もとても多く、休みも少なくなると思います。そうなるので、勉強か部活動のどちらかにかたよってしまいがちになるのではないかと思います。けれど、私は勉強も部活動も両立させ、文武両道を常に目指して日々の生活を送りたいです。

二つ目は、助け合える仲間を作ることです。お互いに、それぞれ違う学校から集まっていて、まだ会ったことも話したこともないけれど、自分から積極的にコミュニケーションをとって、みんなで協力し、助け合えるかけがえのない仲間を作りたいです。

三つ目は、茶道、華道や礼法などの他の学校にはない教科です。これらの教科は、私自身一度も体験したことがないし、他の学校では体験する機会もないかもしれません。それを学校で教わることで、今からとても楽しみにしています。将来、習ったことを活かして、礼儀のあるしっかりした大人になつていこうと期待しています。これらの三つのことを特に頑張りたいです。

松岡ホーム 18番

坪内 咲和

私は、土佐女子中学校で得意な教科をさらに伸ばし、苦手な教科を克服し、一つでも得意な教科にしていきたいと思っています。小学校の時から小説家や歴史上の人物に特に興味があり、森鷗外の小説などをよく読んでいました。中学校ではさらに色々な面白い小説を見つきたいです。

また、グループでの話し合いや授業での発表の時に、自ら進んで自分の意見を言うように頑張りたいです。そして、将来の夢に向かって、まず自分が何をすべきかを考えて行動できるようにしたいと思います。

部活動では、小学校の頃から憧れていた弓道部に入り、集中力を高め、友人を作つて、弓道の知識も身に付け、勉強と部活動の両方に良い結果を残せるよう、どちらも真剣に取り組んでいきたいと思っています。そして、趣味や習い事、課題などのすべてに全力で取り組み、気を抜かずに頑張りたいです。中学生生活を楽しくしていきたいです。

また、一年生では、先輩方の良いところや尊敬すべきところをしっかりと学んで、二年生からは先輩方のように次の一年生から尊敬される先輩になり、いろいろな人に頼ってもらえる人に成長したいです。学んだことを活かして多くの人と交流し、共にいろいろなことに挑戦して、互いに助け合える仲間を作りたいです。

これからの六年間で苦手なことや短所を改善していき、得意なことや長所を活かして、人の役に立てるようになりたいと思っています。

忘れ得ぬ言葉

教務部 杉本 佳代子

「これは、よいこになってしましますね!」ある年度末、進学のため高知を離れた卒業生が職員室を訪ねてきた。その少し前まで私は彼女のホーム主任だった。私たちが他愛のない思い出話はやがて「次は何年生を持ちますか?」と四月からの話に移った。ともに拝命した同僚の名をあげつつ、私は、一年生を受け持つのだと答えた。それを聞いた彼女が高らかに発したのが冒頭の言葉だ。

残念なことに、これは私の教員としての力量を認めるものではない。「この私が習った先生ばかりだから、後輩たちは私のようなよいこになるにちがいない」という、彼女の「自賛」であることはその表情からも明白だった。しかし、この「よいこ」になってしま「う」は私の心に鮮やかに刻まれることとなる。

さて、私の属する教務部は、学校の教育や学習に関する事務を担う。例えば、学習指導要領に基づき、いつ何をどう学び、どのようにして修了と認定するかを規定する。生活指導や行事指導のように生徒が直接的に業務内容を意識することは少ないが、全ての

学校に置かれ「教育環境」に大きく関わる分掌である。学習指導要領は約十年ごとに見直される。現行の最新版は、グローバル化や技術革新が急速に進み、予測が困難な時代にあつて、自ら課題を見つけ思考・判断し人生を切り拓く力、いわゆる「生きる力」を育むことを主眼に置き、二〇二〇年度より小学校から順次実施されてきた。外国語教育やプログラミング、探究、新しい学力観など、具体的な変更点やそれに関連する議論は聞き知るところだろう。

現場にとつて、この学習指導要領の改訂は毎回非常に悩ましい。各科目には必修や選択の別、標準単位数がある。それら「国の定める基準」を満たし、本校の場合で二週間あたり三十四時間(ロングホームを除けば三十三)、中高の各三年という時間を配分する。私

学としての特色を打ち出しつ

つ、生徒の発達段階や学力の実情に適した、バランスよく効果的な、しかも出口(生徒の将来、具体的には大学入試事情)を見据えた、さらには学校施設や教員数という内輪の事情も考慮した教育課程の検討と提示、そして検証は教務部の務めである。中高一貫教育の利を生かし、本校では一部の教科の先取りや反復授業などを通して中学校から高校一年生秋までをかけて文理選択を行い、二三年生は多くの継続履修科目で高度な内容を修めるカリキュラムになっている。今春は中高全学年が新課程となり、検証の初期段階に入った。

教育の不易と流行、その手法等について考えを巡らせる時、あの日の「よいこ」になってしま「う」が私の心をよぎる。お預かりしている生徒たちが「よいこ」になってしま「う」ようなカリキュラムと実践、そして関わり——社会や時代に視野を広く持ち、そもそも何を以て「よいこ」と為すかも含めて、自身に問い続ける力をこの言葉は与えてくれている。



書道部

第3回全国高等学校書道パフォーマンスグランプリ決勝大会出場



令和6年1月7日、千葉県のイオンモール幕張新都心に於いて、地方大会を勝ち抜いた十一校と昨年度の優勝校の計十二校で全国グランプリ決勝大会が開催された。土佐女子は西四国地区代表である。先日の羽田空港飛行機事故のトラブルを心配しながら前入りし、出場校の激励会に参加して、全国大会の雰囲気、規模の大きさを実感した部員達。

かつて、本校は2011年に第6回書道ガールズ甲子園で全国優勝を成し遂げた実績があるが、それは書道パフォーマンスの黎明期にあたり、今では参加校の数も増え、男女混成チームもあつてレベルも格段に違う。多くの保護者が応援に駆けつけ、大型スクリーンに映るパフォーマンスを見守る中、部員達は全国大会の壁を感じながらも、これまでの部活動生活のすべてをぶつけた。そして終わった瞬間には、充実感と感動で部員達の目からは涙が溢れた。構成から音楽、振り付けまですべて自分たちで考えた結果だ。入賞はできなかったが、とても良い経験になったと思う。次の世代を担う高一生は、来年、再び全国の舞台上に立てよう心に誓った。

放送部

第七十回NHK杯 全国高校放送コンテスト出場

令和5年7月、コロナ禍による3年間のブランクを経て、「第七十回NHK杯全国高校放送コンテスト」が完全な形で開催されました。本校からは、県大会を勝ち抜いたアナウンス部門2名、朗読部門1名、創作テレビドラマ部門1作品が出場しました。

過去には先輩が全国優勝を果たしたこともあり、部員達にとっては思い入れの強い大会です。

うだるような暑さと部員たちの熱気に包まれる中、準々決勝、準決勝は渋谷の「オリンピック記念青少年総合センター」で、決勝は紅白歌合戦でおなじみの「NHKホール」で静かな熱戦が繰り広げられました。

残念ながら上位入賞には届きませんが、コロナ禍を越え、部員達にとっては憧れのNHKホールの大舞台で発表する夢が叶い、夢のような4日間でした。



ダンス部

ダンスドリフターカップ全国高等学校ダンスドリフ大会 HIPHOP女子部門 smail 編成 第4位

1月13・14日に武蔵野森総合スポーツプラザで開催された、「ダンスドリフターカップ 全国高等学校ダンスドリフ大会」にダンス部が会場し、HIPHOP女子部門 smail 編成において、第4位となりました。本大会は、第3位まで表彰されるため、惜しくも受賞はできませんでしたが、夢の全国大会で来年に繋がる演技ができたことは何よりの経験となりました。

本番終了後、一息ついた笑顔の選手たちです。この作品は、3月27日(水) かるぽーとで開催された、ダンス部発表会でも披露されました。





映画「ワタシって何もの」出演

書道部・演劇部

令和5年4月29日(土)土佐女子高校におきまして、短編映画「ワタシって何もの」の撮影が行われ、本校書道部と演劇部が出演しました。

この映画は、俳優であり、映画監督でもある、奥田瑛二氏の監督作品です。奥田さんは以前高知県を舞台に映画を撮られた安藤桃子さんの父で、オフアーを受けた演田美穂校長は、高知県での撮影が地域の活性化に少しでもつながればという思いで撮影協力を決めたということです。

当日は朝早くから映画撮影スタッフが本校に来校し、朝の8時30分から、書道室、教室、校長室を使って、午後の8時過ぎまで撮影を行いました。この映画は令和5年秋に「龍馬祈願国際映画祭り」の作品としてキネマミュージアムのオープンイベントに合わせて上映されました。

主な活動実績 (令和5年度)

陸上競技部

- 四国高校対校選手権大会
【女子200m/100m】 出場
【女子 走り高跳】 出場
- 四国中学校総合体育大会
【女子中1 100m】 出場

バレーボール部

- 四国高等学校選手権大会 出場
- 高知県高等学校体育大会 第3位
- 高知県中学校春季選手権大会 優勝
- 高知県中学校秋季選手権大会 優勝
- 高知県中学校新人選手権大会 優勝

ソフトテニス部

- 四国ソフトテニス選手権大会
【個人ダブルス】 出場
- 四国高等学校選手権大会
【個人ダブルス】 出場
- 高知県中学校総合体育大会
【団体】 準優勝
- 四国中学総合体育大会
【団体】 出場
- 高知県中学校秋季大会
【個人】 優勝・準優勝
- 高知県中学校冬季大会
【団体】 優勝
- 都道府県対抗全日本中学生大会
【団体】 出場・【個人】 出場
- 四国中学校インドア大会
【団体】 ベスト8
- 高知県高等学校冬季大会
【団体】 準優勝
- 全国高校選抜大会四国地区予選会
【団体】 出場

バドミントン部

- インターハイ
【団体】 【個人ダブルス】 【個人シングルス】 出場
- 全国中学校体育大会
【団体】 【個人ダブルス】 出場
- 全国高等学校選抜バドミントン大会選手権大会
【団体】 出場
- 全日本中学生バドミントン選手権大会
(都道府県対抗) 出場
- 四国高等学校選手権大会
【団体】 【個人ダブルス】 【個人シングルス】 出場
- 高知県高等学校体育大会
【団体】 優勝【個人ダブルス】 優勝
【個人シングルス】 準優勝
- 四国中学校総合体育大会
【団体】 【個人ダブルス】 出場
- 高知県中学校体育大会
【団体】 優勝【個人ダブルス】 準優勝

卓球部

- 令和5年度 第51回全国高等学校選抜卓球大会
【団体】 ベスト16
- インターハイ
【個人】 3回戦進出
- 四国高等学校卓球選手権大会
【団体】 準優勝【シングルス】 準優勝【ダブルス】 優勝
- 全国高等学校選抜卓球大会四国地区予選会
【団体】 準優勝
- 四国卓球選手権大会(ジュニアの部)
【個人】 優勝
- 全国中学校卓球大会(全中)
【団体】 ベスト8【個人】 3回戦進出
- 四国中学校卓球大会(四国総体)
【団体】 準優勝【個人】 優勝
- 全日本卓球選手権大会(カデット以下の部)
【14歳以下】 2回戦進出
- 東京卓球選手権大会(カデット以下の部)
【14歳以下】 ベスト8

水泳部

- 特別国民体育大会 競泳少年女子A
【400m個人メドレー】 第3位
- インターハイ
【高飛込】 第6位
【3m飛板飛込】 第6位
【200m/400m個人メドレー】 出場
【100m/200m平泳ぎ】 出場
【4×100mフリーリレー】 出場
【4×100mメドレーリレー】 出場
- 全国JOCジュニアオリンピックカップ
【飛込女子・3mシンクロ】 優勝
- 全国中学校総合体育大会
【飛込女子】 最優秀選手賞
【高飛込】 優勝
【3m飛板飛込】 優勝
- アジアエイジグループ選手権
【3m飛板飛込】 優勝(金メダル)
【1m飛板飛込】 準優勝(銀メダル)
【高飛込】 第3位(銅メダル)
- 全日本ユース(U16)水球競技選手権大会
第6位(県選抜チームに所属)
- 四国高等学校選手権大会
【200m/400m個人メドレー】 優勝
【100m/200m平泳ぎ】 優勝

ダンス部

- 全国高等学校ダンスドリル冬季大会
【HIPHOP女子部門 Small編成】 第4位
- ダンスドリル秋季大会中国四国
【HIPHOP女子部門 Small編成】 優勝

新体操

- 四国中学校総合体育大会
女子個人【総合】 出場
- 高知県中学校秋季選手権大会 女子個人
【フープ】 優勝【リボン】 優勝【総合】 優勝

バトン部

- 2023 Japan Cup
【ポンポン部門】 第4位

弓道部

- インターハイ【団体】
【団体】 ベスト32【個人】 出場
- 全国高等学校弓道選抜大会
【団体】 出場
- 高知県高等学校体育大会
【団体】 優勝【個人】 準優勝
- 高知県高等学校春季大会
【団体】 優勝
- 高知県高等学校冬季大会
【団体】 優勝

コーラス部

- 全国高等学校総合文化祭
【団体】 出場
- 全日本合唱コンクール
四国支部大会【高等学校の部】 銀賞
- NHK全国学校音楽コンクール
高知県大会【高校】 銀賞【中学】 銀賞
- 高知合唱アンサンブルコンテスト&フェスティバル
【高校】 銀賞【中学】 銀賞

吹奏楽部

- 全日本吹奏楽コンクール四国支部大会
【高等学校A部門】 銀賞
- 全日本マーチングコンテスト
四国支部大会【高等学校以上の部】 金賞

邦楽部

- 全国高等学校総合文化祭
【日本音楽部門】 出場
- 高知県高等学校連合音楽会
【日本音楽部門】 金賞

マンガサークル部

- 全国高等学校漫画選手権大会
【団体】 アイシー賞

演劇部

- 四国地区高等学校演劇研究大会
優良賞
- 高知県高等学校演劇コンクール
優秀賞

書道部

- 全国高校書道パフォーマンスグランプリ
決勝(全国)大会 出場
- 高円宮杯日本武道館書写書道大展開覧会
日本武道館賞・大会奨励賞
- 高野山競書大会
金剛峯寺賞・高野山管長賞・南山賞
- 全国高校書道展 理事長賞
- 全国書道展 書道展賞
- 全国高校書道展 理事長賞
- 国際高校生選抜書展 準大賞・秀作賞
- 全国学生書道展
【半紙の部】 準大賞・奨励賞
- 高校生国際美術展 奨励賞
- 安芸全国書展高校生大会
第20回記念賞

放送部

- NHK杯全国高等学校放送コンテスト
アナウンス・朗読・テレビドラマ
各部門に 出場
- NHK杯全国中学校放送コンテスト
アナウンス部門に 出場
- 全国高等学校総合文化祭
アナウンス・朗読 各部門に 出場

華道部

- 第2回小原流学生いけばな競技会
中国・四国地区大会【団体】 3位

生物部

- 高知県高等学校総合文化祭
自然科学部門【団体】 最優秀

囲碁部

- 全国高等学校総合文化祭
【団体】 出場・【個人】 出場
- 全国高等学校囲碁選手権大会
【団体】 出場・【個人】 出場
- 全国高等学校囲碁選抜大会
【個人】 出場
- 四国地区高校囲碁大会
【個人】 優勝

ピアノ・エレクトーン部

- 日本パッサコンクール全国大会 出場
- 第29回 LLAピアノコンクール
【連弾の部 個人】 優秀賞

美術部

- 高知県高等学校総合文化祭
美術・工芸部門
- 第68回高校美術展
平面の部【特別賞】